研究報告書　第73号　4

平成22年度　教科に関する研究
研究主題「思考力，判断力，表現力をはぐくむ学習指導」

図画工作・美術

自分なりのイメージを基に，思考・判断し，表現する力を育てる図画工作・美術科学習指導

－言語活動の充実を踏まえた表現及び鑑賞の指導を通して－

茨城県教育研修センター

目　次

1　主題について ---------- 1

2　授業研究

【授業研究１】小学校第１学年「どうぶつむらのピクニック」における，自分なりのイメージを基に，思考・判断し，表現する力を育てる図画工作科学習指導
材料の選択と鑑賞の方法の工夫を通して ---------- 3

【授業研究２】小学校第６学年「オットット！楽しいゆらゆらワールド」における，自分なりのイメージを基に，思考・判断し，表現する力を育てる図画工作科学習指導
形や色，材料にかかわる表現活動とイメージを交流する鑑賞活動を設定した学習過程の工夫を通して ---------- 10

【授業研究３】中学校第１学年「探検！発見！絵画の世界」における，自分なりのイメージを基に，思考・判断し，表現する力を育てる美術科学習指導
アイマスクを使用したイメージと言葉を結び付ける鑑賞指導の工夫を通して ---------- 17

3　研究のまとめ ---------- 24

1　主題について

（1）自分なりのイメージを基に，思考・判断し，表現する力について

中央教育審議会答申（平成20年１月17日）（以下，答申と示す。）には，学習指導要領の改訂に向けた図画工作・美術科に関する改善の基本方針として，以下のような内容が示されている。

> 思考・判断し，表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てることを重視する。
>
> 感じ取る力や思考する力を一層豊かに育てるために，自分の思いを語り合ったり，自分の価値意識をもって批評し合ったりするなど，鑑賞の指導を重視する。

答申の内容を受け，改訂された小学校学習指導要領解説図画工作編（平成20年８月）（以下，小学校解説と示す。）及び中学校学習指導要領解説美術編（平成20年９月）（以下，中学校解説と示す。）には，〔共通事項〕の内容に，以下のことが示されている。

> 小学校〔共通事項〕の内容
>
> 形や色などの特徴をとらえたり，イメージをもったりする能力は，表現及び鑑賞の活動の基になるとともに，対象からの情報を的確にとらえ，それを主体的に判断するコミュニケーション能力の基盤となる。
>
> 中学校〔共通事項〕の内容
>
> 〔共通事項〕の視点から発想や構想を促したり，生じたイメージを大切にして鑑賞したりすることにより，感性や美術の創造活動の基礎的な能力が一層豊かに育成されていく。

これらの答申や学習指導要領解説の内容等を踏まえると，自分なりのイメージを基に思考・判断し，表現する力は，形や色，材料などの特徴をとらえ，工夫して表現する力であり，表現と鑑賞の活動を通して培われていくものと捉えることができる。

思考・判断し，表現する力を育てるために，表現においては，児童生徒が形や色，材料などに進んで働きかけながら，感じ取ったことや考えたことなどを伝え合ったり，それらのよさや特徴を生かしたりして表現することのできる学習活動を一層重視することが必要である。鑑賞においては，自分の思いや感じ取ったことを話したり，友人と語り合ったりしながら，生じたイメージを大切にして鑑賞することのできる学習活動を充実することが重要である。

（2）研究の基本方針

思考・判断し，表現する力の育成について，小学校解説では，「それぞれの能力は，児童が自己との対話を重ねながら，他者や社会，自然や環境などの多様な関係の中で活動することによって培われることになる。」と示され，中学校解説では，「生徒の主体的な学習活動の中でこれらの能力が関連しながら，十分かつ有効に働くようにすることが重要である。」と示されている。これらは，図画工作・美術科の指導において従前から重視している，形や色，材料などから感じ取ったことを生かして他者や社会にかかわりながら表現する児童生徒の姿を認め，それらの活動をさらに充実させていくことを求めているといえる。

そこで，表現及び鑑賞の活動を通して，児童生徒が形や色，材料などに十分にかか

わりながら表し，それらのよさや特徴などの気付きや表現の工夫を説明したり，話し合ったりするような言語活動の充実を踏まえた授業を展開することで，自分なりのイメージを基に，思考・判断し，表現する力を育てることができると考える。

（３）主題に迫るために

教科調査官の村上尚徳氏は，図画工作・美術科における言語活動を以下の二つに整理している。

○　感じ取ったことなどを絵等（造形）で表現する活動
○　感じ取ったことなどを言葉で表現する活動

このことは，鑑賞の活動だけでなく，形や色，イメージなどを基に想像を膨らませ，表したいことを考えながら材料や用具を用いて表現するなど，自分の思いを具体的に作品に表現する活動も図画工作・美術科の言語活動と捉えていることを示す。

また，答申に示されている思考力，判断力，表現力を育成する学習活動の具体的な事例を踏まえると，図画工作・美術科では，表したいことを作品化することはもとより，工夫や気付きを話し合ったり，伝え合ったりするなど，表現と鑑賞の活動を通して言語活動を充実させることが重要であると考える。

そこで，本研究では，児童生徒の発達の段階に合わせて，言語活動の充実を踏まえた表現及び鑑賞の指導を工夫し，主題に迫る。

ア　言語活動の充実を踏まえた表現の指導

児童生徒は，材料に触れて形の感じや質感をとらえたり，材料を見つめながら色の変化に気付いたりするなど，直観的に対象の特徴をとらえている。同時に対象や自分の行為などに対して自分なりのイメージをもっている。そしてこれらを基に発想や構想，創造的な技能，鑑賞などの能力を働かせて具体的な活動を行っている。

これらの能力を働かせながら，自分の思いを表すことができるように，発達の段階に合わせて材料や用具，表現方法などを選んだり，表し方を考えたりしながら創意工夫して表現することができる場を設定する。ここでの活動を充実させることで，形や色，材料などの特徴を生かして表現することができるようにする。

イ　言語活動の充実を踏まえた鑑賞の指導

小学校解説「Ｂ鑑賞」の各学年の内容に「話したり，聞いたりする。」，「話し合ったりする。」などの学習活動が位置付けられ，中学校解説「Ｂ鑑賞」の各学年の内容には「作品などに対する思いや考えを説明し合う。」，「価値意識をもって批評し合う。」などの学習活動により言語活動の充実を図ることが示されている。

これらの活動を児童生徒の実態や発達の段階に合わせて学習過程に位置付け，形や色，材料などによる感じの違い，表し方の変化，表現の意図や特徴などをとらえることができるようにする。

また，そこで行われる理解や活用，熟考や評価などを，児童生徒が自分の学びとして実感できるように，学習カード等を工夫し活用する。児童生徒が学習カード等への記述を基に，自分の学習について振り返りながら活動を進めたり，児童生徒同士が自分の思いや考えを互いに感じ取り伝え合ったりすることを取り入れた授業を展開することが，思考・判断し，表現する力を育てることにつながると考える。

2　授業研究

【授業研究１】

小学校第１学年「どうぶつむらのピクニック」における，自分なりのイメージを基に，思考・判断し，表現する力を育てる図画工作科学習指導
―材料の選択と鑑賞の方法の工夫を通して―

1　題材名　　どうぶつむらのピクニック

2　題材の目標

○　身近な材料などを利用してつくりたい動物をつくったり，みんなで飾ったりして楽しもうとする。（造形への関心・意欲・態度）

○　つくってみたい動物を思い付き，材料を選んだり特徴を生かしたりして，自分らしい表し方を考えることができる。（発想や構想の能力）

○　材料を切る，つなぐ，貼り合わせるなどして組み合わせ，表したい感じを工夫することができる。（創造的な技能）

○　友人の思い付いた動物のよさや面白さに気付くことができる。（鑑賞の能力）

3　題材設定の理由

本題材は，児童が最初に取り組む６時間という長い活動時間の工作の題材である。紙の空き箱を主材料にして動物をつくっていくものであり，細長い箱や赤い箱等の材料の形や色から想像を広げ，材料の特徴を生かしてつなげたり組み合わせたりしていくものである。身近な材料に十分に触れ合い，材料のつなげ方や組合せ方などを工夫して表す活動の中で，材料に簡単な加工を施したり，色紙などを使って自分で形をつくったりすることもできる。最後にはつくった動物をどのように集めれば楽しくなるかを話し合い，「どうぶつむら」をつくることで，友人と交流しながら互いのよさを感じ取ることができる題材であると考える。

本校第１学年の図画工作科の学習では，７月までにクレヨンや色鉛筆，マジックペンなどの描画材料を使って絵を描いたり，はさみやのり，木工用ボンド，セロハンテープ，ビニルテープなどを使って工作をしたりしてきた。また，石や木，砂や土等の身近な材料を使った造形遊びも行ってきた。その際，グループでの活動を取り入れ，近くの席の児童と話し合ったり教え合ったりする機会を設けてきたので，自分と違う材料や用具の使い方，作品のつくり方を認めることもできるようになった。多くの児童は図画工作科の学習を楽しみにしている。しかし一方で，毎日の生活の中で材料に十分に触れ合うことができないために材料から感じる思いを作品に生かすことが難しい児童や，細かい作業がうまくできずにいらだって作品を壊してしまう児童がいることも現状である。

そこで，本校第１学年の児童の実態を考慮し，図画工作科の工作の活動における思考・判断し，表現する力を育てるためには，まず作品に対する自分なりのイメージをもたせ，多くの材料に親しませることが必要であると考えた。そのために，普段から空き箱，ラ

ップやトイレットペーパーの芯，ビニル袋等の身近な材料に興味をもたせ集めさせたいと考える。また，材料から受けるイメージと自分のつくりたい動物に対する思いとの両方を作品につなげさせることで，楽しく充実した表現活動を行いたい。鑑賞の活動においては，自分の作品のよさだけでなく友人の作品のよさや，「むら」に集まった仲間や「むら」自体の環境のよさにも気付かせながら言語活動の充実を踏まえた授業を展開することで，思考・判断し，表現する力を育てることができると考え，本題材を設定した。

４　主題に迫る具体の手立て

（１）言語活動の充実を踏まえた表現の指導

ア　段階ごとの材料の選択方法の工夫

本学級の今までの工作の学習では，児童全員が教師や保護者が用意した紙コップやビニル袋などの同じ材料を使ってきた。本題材では，初めて各自が用意した様々な材料を使って工作をすることとなる。

題材に入る前に，学級通信を通して家庭に呼びかけ，材料の準備をお願いする。この時点では児童の製作意図はほとんど反映されていない。後の活動で自分のイメージを基に選択することができるよう，一人複数の空き箱を用意する。

導入の段階で学習活動を説明する際には，児童が製作の手順などをイメージしやすいように具体的に材料について説明し，大小いくつかの空き箱を用意して提示する。材料を用意できない児童のために職員にも働きかけ，給食に出るデザートの容器や教材購入の際の箱等をためておき，全ての児童が利用できるようにしておく。それらを図工室の材料コーナーに集め，児童が思いに合わせて選ぶことができるようにする。

製作の段階では，保護者が用意したいくつかの材料から思い付いたイメージでつくりたい動物を製作させるが，１週間後の授業では自分のつくりたい動物をつくるために必要な材料を自分で用意してくるように伝える。製作方法をある程度理解してつくった後に，児童が自分なりの製作意図を保護者に伝えて，保護者と一緒にまたは自分自身で主体的に材料を準備することができるようにする。この段階を入れることで，次に製作する動物に対する自分のイメージを確固たるものにさせることができると考える。

イ　形や色，材料にかかわる場の設定

製作に入る前に，基礎的・基本的な技能の習得のために，児童や教師が用意した空き箱やラップ，トイレットペーパーの芯などを使って，箱と箱を接合したり，筒を折って付けたりする練習をする。様々な形や色の箱があることや，紙の厚さによって，はさみで切るときの力の入れ方が違ったりすること，材料によって接合方法を変えることなどに児童自身が気付くような助言を工夫しながら，楽しい活動を展開することができるようにする。

形や色，材料などに進んでかかわり，それらのよさや特徴に気付き，多くの材料の中から使うものを自分で選択することで，思考・判断し，表現する力を育てることができると考える。

（２）言語活動の充実を踏まえた鑑賞の指導

ア　「むら」づくりの話合い

作品である動物を机の上に並べて互いに見合って鑑賞するのではなく，題材名に「どうぶつむらのピクニック」とあるように，児童が話し合って楽しい「むら」をつくる。そして，その「むら」に集まる動物のよさや，友人のつくった「むら」と自分のつくった「むら」との違いなどを考えさせる。また，「むら」づくりをさせながら，必要があれば池や木などを児童同士で話し合いながらつくらせる。１週間程度展示しておくことで，他学年の多くの児童が鑑賞できるようにする。

イ　手紙形式の鑑賞カード

まとめの鑑賞では，国語科で学習した手紙の形式を利用する。作品のよいところを記して相手に伝えるという統一された形式をとれば，誰のどんな作品に対しても児童は抵抗なく手紙を書くことができると考える。その際，鑑賞の視点を明確にし，どんなことを書けばよいのかを理解させることが必要である。

ひらがなが十分に書けない児童には，よいと思ったところを絵で描かせたり，担任が聞き出して意見を代筆したりすることで，自分の思いを相手に伝えることができるようにする。

また，動物に宛てた手紙を書くという形式をとり，手紙を楽しみに待つことができるように，教師が設置したポストに手紙を投かんさせる。手紙を書いたり読んだりする活動を通して言語活動の充実を図り，児童に作品や表し方のよさや面白さを味わわせることで，今後の表現活動に生かすことができるようにする。

５　授業の実践

（１）学習計画及び評価計画（６時間扱い）

次	時間	学習活動・内容	関･意	発･構	技能	鑑賞
1	1	・自分がつくってみたい動物を考えて発表する。 ・集めた空き箱の特徴を基に，つくりたいものを考える。	○	○		
2	2 3 4	・集めた材料を組み合わせたり，切ったり，つなげたりしながら，自分のつくりたい動物をつくる。		○	○	
3	5 6	・完成した作品を集め，「どうぶつむら」をつくる。作品をつくった自分や友人の思いや工夫を話したり書いたりする。			○	○

〔共通事項〕の視点から	・空き箱の形や色などを基に，つくりたい動物のイメージをもつ。

（２）学習の流れ

ア　準備・資料

教師…木工用ボンド，シール，ビニルテープ，布テープ，梱包材，マジックペン，ラシャ紙，色画用紙，ポスト，手紙，掲示資料

児童…空き箱，紙コップ，ラップやトイレットペーパーの芯，のり，はさみ，セロハンテープ，色紙等

イ　学習活動全体の展開

次	時	学習活動・内容	・指導，○評価，◇言語活動の充実の視点から，◆努力を要する状況の児童への手立て
1	1	1　本題材の課題をつかむ。 つくってみたいどうぶつをかんがえよう 2　材料を基につくりたい動物を考えて発表する。	◇教師が用意した空き箱の特徴を生かして，見立てて遊んだり並べたりすることで，各自が用意した材料の特徴に気付いたり話したりすることができるようにする。 ○【関心・意欲・態度】（観察，発表） つくりたい動物を想像することを楽しもうとしている。 ○【発想や構想の能力】（観察，発表） 集めた空き箱の特徴を基に，つくりたい動物を考えている。 ◆つくりたい動物を考え付かない児童には，教師が用意した空き箱をいくつか示し，それを使ってつくった簡単な参考作品を提示し，会話を通して発想を促す。 ・集めた空き箱ではつくりたい動物ができない場合は，次回の授業までに空き箱を用意するよう伝える。
2	2 3 4	1　本時の課題をつかむ。 あきばこでだいすきなどうぶつをつくろう 2　集めた材料を組み合わせたり，切ったり，つなげたりしながら，自分のつくりたい動物をつくる。	◇数人の児童のつくりたい動物の特徴等の発表から，他の児童にもどのようにつくるかを考えさせることで，課題をつかむことができるようにする。 ◇つくりたい動物に合わせて用意した材料を選んだり試したりすることで，自分の思いを表せるようにする。 ・どんなふうに積み上げたり組み合わせたりするかを確認してから空き箱にはさみを入れるよう助言する。 ・マジックペンや梱包材，色紙等を使って，空き箱でできた動物を装飾させる。 ○【発想や構想の能力】（観察） つくりたい動物の特徴を自分なりに考え，イメージをもち，表し方を考えている。 ○【創造的な技能】（観察，作品） 空き箱や紙を切る，組み合わせる，貼るなど，自分のイメージの広がりとともに，表し方を工夫しながらつくっている。 ◆表し方を考えることができない児童には，教科書の作品を提示したり，一緒に見立てて遊んだりしながら，つくりたい動物のイメージを会話の中から導く。
3	5 6	1　本時の課題をつかむ。 「どうぶつむら」をつくろう 2　つくった動物を種類ごとに集めてむらをつくる。 3　友人のつくった動物に手紙を書く。 「どうぶつむら」のともだちへてがみをかこう	◇どんな集まりのむらがよいかを話し合い，むらの特徴を児童の意見から決めていく。 ・むらごとに話し合い，必要なら池や木等をつくる。 ○【創造的な技能】（観察，作品） 友人と話し合い，表し方を工夫して楽しい「どうぶつむら」をつくっている。 ◇手紙の書き方の見本を提示することで，友人のつくった動物に対して手紙を書くことを意識付ける。 ・動物だけでなく，池や木等周りのものに対しても手紙を書くよう助言することで，鑑賞の視点を明確にする。 ○【鑑賞の能力】（観察，手紙） 友人のつくった動物のよさや面白さに気付き，具体的に手紙に書いている。 ◆思ったことや感じたことを文字で表現できない児童には，動物の絵を描いてよいところを丸で囲むなど，感じたことを友人に伝える具体的な方法を知らせる。 ◇よさや面白さが具体的に書かれた手紙をポストから数枚取り出し読んで聞かせることで，多様な鑑賞の視点に気付くことができるようにする。

６　授業の分析と考察

（１）言語活動の充実を踏まえた表現の指導から

ア　段階ごとの材料の選択方法の工夫

製作意図の反映されていない，保護者が用意したいくつかの空き箱を使った活動でも，イメージを膨らませるための助言を工夫したことで，児童が材料に進んでかかわりながら製作する姿が見られた。

自分で材料を用意するよう伝えた１週間の間に，給食のデザートの容器や，おやつの箱等にも目が向き，多くの材料が集まった。友人の用意したものが家庭のどこにあったのかを尋ね，同じようなものを自分の家で探したり，図工室に頻繁に足を運んだりするなど積極的に材料を集める児童が多く見られた。

前時に製作手順を理解できていたこともあってか，自分が選んで用意してきた材料を使った製作の段階では，前時よりもはるかに意欲的な活動の様子が見られた。「赤い箱だからかにがつくれるね。」，「たこの足をつくるときははさみで切るといいよ。」等の声が多くなり，作品や表し方に対して互いにアドバイスをする姿が見られるようになった。

導入の段階で，材料の特徴から思考し，どのようにつくっていくかを判断し，それを表現することを体験したために，自分なりのイメージを基に材料を用意したり選択したりすることが容易になったと考える。また，本題材前には，材料は保護者に頼んで買っておいてもらうもの，という考えをもっている児童が多かったが，本題材を通して，今までは捨ててしまっていた紙の箱やプラスチックの箱等も，工作の材料として十分に使えることに気付くことができた。

イ　形や色，材料にかかわる場の設定

本題材に入る前に設定した，材料にかかわりながら技能を習得する時間で，空き箱やラップ，トイレットペーパーの芯等を使って，箱と箱，箱と筒を接着する方法を指導した。箱の表面はコーティングしてあるものが多く，筒は円柱形であるため，最初に児童の持っているのりではうまく接着できないことを体験させた。その後，切り込みや折る方法を指導したことで，「はさみで切って足にするから柔らかい箱がいい。」，「ぼくは台にして首をのせるから硬い箱がいいな。」など，材料の特徴に気付き，用途によって材料や技法を選択している様子が見られた。

（２）言語活動の充実を踏まえた鑑賞の指導から

ア　「むら」づくりの話合い

教室で同じ「むら」の動物のグループを編成し，話合いで決まった生活科室に行ってからそれぞれのグループの「むら」の場所を設定した。「むら」には動物以外に何が必要なのかをグループごとに話し合い，海や沼，公園や牧場，家やオアシスなどを分担してつくった。生活科室にあるたらいやラシャ紙，緩衝材などを工夫して使い，資料１のように思い思いの「むら」をつくっていった。

資料１　たらいで海をつくるグループ

資料２　「むら」づくりのための児童のやりとり

Ｃ１	ここはジャングルだぞ。
Ｃ２	（向かい合ったキリンを見て）わあ，話してるみたい。 ぼくのたぬきもここに置いていい？
Ｃ１	たぬきってジャングルにいる？
Ｃ２	たぬきってどこにいるの？
Ｃ１	草原じゃないの？
Ｃ２	そっか。（たぬきの位置を動かして，ジャングルでなく草原に持っていく。）
Ｃ３	これは落書きだ！（あまり活動を楽しめない児童が動物の下に敷いたラシャ紙を黒のマジックペンで塗りつぶし始めている。）
Ｃ４	（Ｃ３の活動を見て）Ｃ３のかいたのは，土と草みたいに見えるね。
Ｃ３	（Ｃ４の言葉から落書きをやめてＣ４の真似をして星や花をかく。）

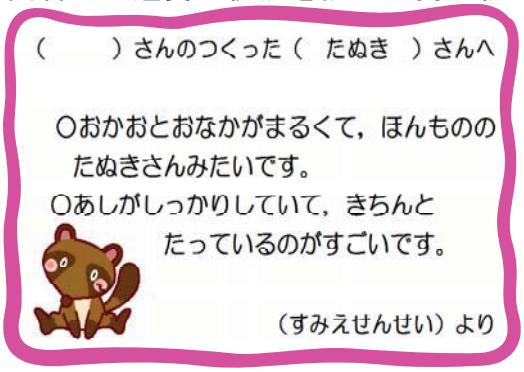
資料２から，Ｃ１とＣ２の児童は，ジャングルをつくりながらたぬきがどこにいたらよいかを考えて話し合い，新しい環境へ移動させていることが分かる。また，Ｃ３の児童が「むら」づくりを楽しむことができないために，みんなで話し合って用意した茶色のラシャ紙を真っ黒に塗っていたところへ，Ｃ４の児童がＣ３の表し方を認め意味付けをしたことで，Ｃ３は自分のマイナスの感情をプラスの感情に変えていき，星や花などの表現ができるようになったと考えることができる。

一人一人がつくった動物の形や色等の特徴を基に「むら」をつくる活動を通して，互いの思いや考えを認め合うことができるようになった。

イ　手紙形式の鑑賞カード

「○○（作者）さんのつくった◇◇（作品）さんへ」という形式の手紙を書くことで，友人の作品のよさや面白さに気付き，相手に伝えることができるようにした。資料３は，教師が書いた手紙の書き方の見本である。鑑賞の視点を動物そのものの形や色，動物をつくる際の技能（足の接着方法やたてがみの付け方など）の両方を示し，書き方を具体的に伝えたため，児童は感じたことを自分の言葉で表現することができた。資料４に児童が書いた手紙の記述を示す。

資料３　鑑賞の視点を記した掲示物



資料４　手紙の記述（抜粋）

動物の形や色について	動物の表情や動きについて
・ながさがすごいですね。（へび） ・くちばしがさんかくで，ほんものみたいです。（ペンギン） ・しましまでかっこいいですね。（亀） ・おなじいろでつくっていてすごいね。（馬）	・のしのしあるいていますね。（ぞう）① ・ねころがってきもちよさそうです。（ねこ） ・ほんものぐらいおおきくて，おにわであそんでたのしそうです。（犬）② ・かめさんにこにこえがおですね。（亀）
動物をつくる技能について	**環境について**
・おなかがちゃんとたたけるようになっていてすごいですね。（たぬき） ・ちゃんとくちからべろがでていてすごいです。（へび） ・くちがあいたりしてすごいです。（わに）	・○○さんだけがおあしすをつくったなんてしりませんでした。すごいですね。（オアシス） ・たらいのうみでおよいでいて，たこさん，たのしそうですね。（海）③ ・かわいいおうちができてよかったね。（家）

記述①や②，③のように，教師が示した動物の形や色，動物をつくる技能だけでなく，動物の表情や動き，池や木等の環境のよさなど，児童が見付けた視点が多く見られた。

また，ポストに手紙を投かんした経験のない児童が大部分だったので，書いた手紙がポストを通じて友人に届くという仕組みを大変喜んでいた。６色の紙で印刷した手紙用紙を用意しておいたため，「全ての色の手紙を使って書きたい。」とわくわくしながら書いており，うれしそうに投かんする姿が多く見られた。全員がどんな手紙が届くのかを楽しみに待っていた。

資料５　手紙を投かんする児童

ポストに入った手紙をそれぞれの児童に分けて読ませたところ，「自分も同じことを感じた。」，「自分の気付かなかったよさを見付けてくれた。」などと話している児童がいた。作品を１週間展示し，他学年の児童にも手紙を書いてもらったので，上級生からもらったひらがなの手紙を大変喜んでいた。次の題材の鑑賞の際には，もっとたくさんの友人のよさを書きたいと意欲を示す児童も見られた。

手紙を活用したことで，自分の感じた動物や家，木等のよさや面白さを相手に分かるように具体的に書くことができるようになり，同時に相手が自分の作品のよさや面白さをどのように感じたかを知ることができた。さらに，気付いたことを今後の表現活動に生かそうとする様子が見られた。

７　授業研究の成果と課題

言語活動の充実を踏まえた表現の指導を工夫したことで，自分なりのイメージを基に材料や用具を選んだり，表し方を思考・判断したりしながら，表現することができた。形や色，材料に十分にかかわりながら思い思いの動物をつくり，動物の集合体である「どうぶつむら」はどこにあったら楽しく，そこにはどんな動物が集まっているのかなどを話し合い，思いを伝え合いながら「むら」づくりをしていくことは，児童にとって計画的で充実した活動となった。今までは教師の意図した生活班などでの活動が多かった児童が，自分たちで考えた「むら」というグループを基に，自主的にルールなどを話し合うことができたことは大きな成果である。

言語活動の充実を踏まえた鑑賞の指導を工夫し，最後に設けた鑑賞活動を「○○（作者）さんのつくった◇◇（作品）さんへ」という手紙の形式にしたことで，動物そのものだけでなく，動物が置かれている環境や背景などについても，具体的によさや面白さを感じ取ることができた。手紙で相手によさや面白さを伝えるという経験を通して，相手に分かるように書くことの重要性に気付き，ただ漠然と見るのではなく，目的をもって見るという鑑賞の視点をとらえることができるようになった。

上記のような姿がほとんどの児童の活動や手紙の記述に見られたことから，材料の選択と鑑賞の方法を工夫することで，自分なりのイメージを基に，思考・判断し，表現する力を育てることができたと考える。

今後は，言語活動の充実につながる作品の展示方法を工夫し，児童の思いと作品を保護者や地域に広く伝える実践を展開していきたい。

【授業研究２】

小学校第６学年「オットット！楽しいゆらゆらワールド」における，自分なりのイメージを基に，思考・判断し，表現する力を育てる図画工作科学習指導ー形や色，材料にかかわる表現活動とイメージを交流する鑑賞活動を設定した学習過程の工夫を通してー

１　題材名　　オットット！楽しいゆらゆらワールド

２　題材の目標

○　揺れる仕組みをつくり，揺らしてみたいものをつくることに意欲的に取り組もうとする。（造形への関心・意欲・態度）

○　材料や用具，友人との交流を基に，新たな発想をしたり，表したいことの構想を練ったりすることができる。（発想や構想の能力）

○　材料や用具，イメージしたことなどを基に，試したり選んだりしながら工夫して表すことができる。（創造的な技能）

○　互いのアイデアやつくり方の工夫に気付き，作品についての見方を深めることができる。（鑑賞の能力）

３　題材設定の理由

本題材は，台上で支持点（足）を支えにして揺れる仕組み（やじろべえ，バランストイなどと呼ばれるもの）を基にイメージを広げ，思い付いたものを，形や材料などを工夫してつくる活動である。児童にとって揺れる様子や揺れを生む仕組みの構造からイメージをもち，つくりたいものやつくり方を選び工夫して表すことは，自分なりのイメージを基に，思考・判断し，表現する力を身に付けるのに適した題材であると考える。

本学級の児童の多くは，授業中に友人とかかわりながら自分のイメージをもったり，困ったことを解決したりしながら製作を進めている。しかし，児童の学習の様子を見ると，様々な材料や用具などに進んでかかわり，形や色，材料などに働きかけながら工夫して表したり，友人との交流を基に新たな発想を得て，製作活動に積極的に生かしたりしている児童は少ない。そのため，最初にもったイメージが十分に広がらないまま，作品を完成してしまう児童が多く見られる。このことから，これまでの学習は，自分なりのイメージをもって製作を進めてはいるが，イメージを基にして，さらに想像を膨らませ，表現する力を育てるような活動としては十分ではないことが考えられる。

そこで本題材では，導入の段階に，形や色，材料などに働きかけ，試しながら工夫して表す学習と，製作のそれぞれの過程に，友人と相互鑑賞をする学習を位置付ける。表現と鑑賞を通して言語活動の充実を踏まえた学習過程を工夫することで，思考・判断し，表現する力を育てることができると考える。また，児童が学習全体の見通しをもち，自らの学びを実感できるような学習カードを工夫し，活用することで，表現や鑑賞での言語活動をさらに充実させたいと考える。

４　主題に迫る具体の手立て

（１）言語活動の充実を踏まえた表現の指導

思考・判断し，表現する力を育てるためには，製作の基となる自分なりのイメージをもつことが大切である。そこで，「試しの学習」として，製作の導入の段階で揺れる仕組みを試しながら，形や色，材料などに能動的にかかわることができるような学習を設定する。また，学習活動の場には「材料・用具コーナー」を設置し，たくさんの材料や用具に触れ，自由に選んだり，試したり，組み合わせたりできるようにする。このことで，児童は製作の早い段階で自分のイメージをもち，多様な表現を試し，自らの発想や構想を広げていくことができるようになると考える。

（２）言語活動の充実を踏まえた鑑賞の指導

ア　イメージを交流する鑑賞活動を設定した学習過程の工夫

形や色，材料などとのかかわりだけでなく，製作中に友人と語り合う場を意図的に設けることで，互いの創意工夫や気付き等を話し合うことができるようにする。この活動は，自分のイメージや思いを確認したり，友人がとらえた新たな視点や考えなどに気付くきっかけとなり，表現における新たな思考や判断の材料として，自らのイメージを広げる基になると考える。このことをイメージを交流する鑑賞活動として，製作活動の各段階に位置付ける。

導入の段階では，「イメージをもつ鑑賞」として，学習カードに記入したアイデアスケッチを基に，４～５人のグループで鑑賞活動を行う。自分が考えたアイデアの説明をしたり，友人の質問に答えたりするなどの活動を通して，これからつくる作品のイメージをしっかりともつことができるようにする。

製作の段階では，「イメージを広げる鑑賞」として，２時間の活動後に，製作中の作品について鑑賞活動を行う。ここでは，自分がつくる作品の製作意図や特徴などを友人に伝えることを通して，自分のイメージを確認する。また，友人から製作の助言を受けることで，新たなイメージに気付いたり表し方の手掛かりを得たりすることができるようにする。このような交流を製作中に意図的に設定することは，児童の自発的な鑑賞活動を促すことになると考える。

鑑賞の段階では，「イメージを伝え合う鑑賞」として，全体で活動する前に，グループで活動を行う。そこでは，完成した作品や学習カードの記述を基に，製作意図や作品の特徴などについて話し合い，互いのイメージの広がりや表し方の工夫を感じ取ることができるようにする。このことで児童は，作者の作品への思いを感じ取ることができ，鑑賞する力をさらに高めることができると考える。

イ　学習カードの工夫と活用

児童が学習全体の見通しをもち，自らの学びを実感できるように学習カードを工夫し活用する。このことで児童は，自分のイメージや製作意図を明らかにすることができ，自らの表現活動や友人との鑑賞活動において，自分なりのイメージを基に，思考・判断し，表現する力を育む効果を高めることができると考える。

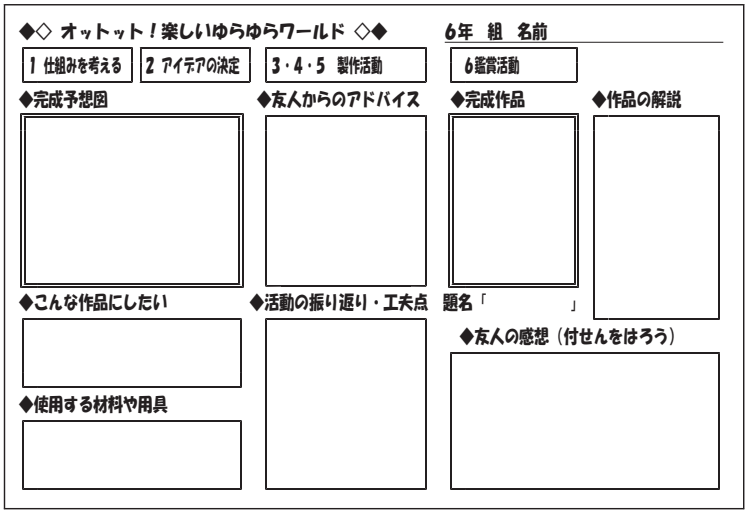
学習カードは，資料１に示すように，製作の流れを分かりやすく示し，また，自分のイメージや表し方の工夫が一目で分かるように，文章や図で簡単に記入することができるようにする。このことで児童は，自分の学習を振り返り，見通しをもっ

て活動を進めることができると考える。

また，友人との交流から得た，製作のアドバイスを記入する項目をつくり，書き込むことができるようにする。この記述から，児童は，友人がとらえた新たな視点や考えなどを生かして製作を進めることができると考える。

このように，言語活動を充実させる視点から，表現と鑑賞を通して学習カードを工夫し活用することが，思考・判断し，表現する力を育てることにつながると考える。

資料１　学習カ　ド



５　授業の実践

（１）学習計画及び評価計画（６時間扱い）

次	時間	学習活動・内容	関･意	発･構	技能	鑑賞
1	1	・揺れる仕組みを動かして，気が付いたことを発表し合う。 ・材料や用具を選んで動く仕組みをつくり，いろいろな動かし方を試してみる。 ・自分のアイデアを学習カードに描き，友人とイメージの交流をする。	○	○		
	2	・材料や用具，友人との交流を基に構想を練り，つくる。		○		
2	3 4	・揺れる仕組みや材料からのイメージを基に，思い浮かんだものを工夫してつくる。		○	○	
	5	・鑑賞活動で友人とイメージの交流を行い，さらに工夫しながらつくる。			○	○
3	6	・発表会で互いの作品を鑑賞し，つくり方の工夫や作品の見方を深め合う。				○

〔共通事項〕の視点から	・形や色，材料や用具に触れ，自分の気持ちや考えに気付いたり確かめたりしながら，つくりたいもののイメージをもつ。

（２）学習の流れ

ア　準備・資料

教師…針金，紙粘土，ラジオペンチ，洗濯ばさみ，各種紙類，木切れ，ビニルテープ，木工用ボンド，グルーガン，カッターナイフ等

児童…集めた材料，はさみ，のり，定規等

イ　学習活動全体の展開

次	時	学習活動・内容	・指導，○評価，◇言語活動の充実の視点から，◆努力を要する状況の児童への手立て
1	1 2	1　本題材の課題をつかむ。 揺れる仕組みの動きを生かして，楽しいおもちゃをつくろう 2　材料や用具を選んで揺れる仕組みをつくり，いろいろな動かし方を試してみる。 3　自分がつくりたい作品のアイデアを学習カードに記入する。 4　グループで作品を見合ったり，工夫点について話し合ったりして，互いのイメージを交流させる。	・簡単な仕組みを幾種類か提示することで，児童の製作への意欲が高まるようにする。 ◇仕組みを動かして気付いたことについての発表を基に，バランスを取るためのポイントについて確認する。 ・針金と洗濯ばさみを多数用意して，揺れる仕組みを簡単につくることができるようにする。 ◇様々な材料や用具に触れ，試しながら，つくってみたいものを考えるように助言する。 ○【関心・意欲・態度】（観察，発表） 揺れる仕組みをつくり，揺らしてみたいものをつくることに意欲的に取り組もうとしている。 ◇作品のアイデアや見通しを学習カードにまとめることで製作のイメージをしっかりととらえられるようにする。 ○【発想や構想の能力】（観察，学習カード） 材料や用具，友人との交流を基に，表したいことの構想を練っている。 ◆表したいことの構想を練ることができない児童には，仕組みや材料を提示し，会話をしながら考えを引き出すようにする。
2	3 4 5	1　本時の課題をつかむ。 つくりたいものに合った材料や用具を考え，工夫してつくろう 2　動く仕組みを考え，材料や用具を選びながらつくる。 3　グループで作品を見合ったり，工夫点について話し合ったりして，互いのイメージを交流させる。 4　交流したことを生かして，さらにイメージを広げ，工夫して表す。	・学習カードを見て，自分のアイデアや前時の鑑賞で交流したことを確認し，製作の見通しがもてるようにする。 ◇材料や用具の工夫，友人との交流などを基にして新たな発想を思い付いたら，表現を試したりやり直したりしながらつくるように助言する。 ○【発想・構想の能力】（観察，作品，学習カード） 材料や用具，友人との交流を基に，表したいことの構想を練ったり，新たな発想を考えたりしている。 ◆つくりたいことのイメージが広がらない児童には，作品や考え方のよい点について知らせ，工夫をする視点が明らかになるようにする。 ○【創造的な技能】（観察，作品） 材料や用具，イメージしたことなどを基に，試したり選んだりしながら作品をつくっている。 ◆自分の思うようにつくることができない児童には，技法上の助言や指導を行い，製作の手順を示すようにする。 ◇あらかじめ設定された鑑賞活動だけでなく，必要に応じて自主的に相互鑑賞してもよいことを伝える。 ○【鑑賞の能力】（観察，学習カード） 互いのアイデアやつくり方の工夫に気付き，見方を深めている。
3	6	1　本時の課題をつかむ。 互いの作品を鑑賞して，つくり方の工夫や作品のよさを見付けよう 2　グループ内で鑑賞会を行い，自分の作品についての説明をする。 3　学級全体の作品を鑑賞し，気に入った表現や工夫点についての感想を付箋に記入する。	・作品に触れ，揺れたり回ったりする動きを楽しむ時間を設定することで，鑑賞がより深まるようにする。 ◇学習カードを基にして，作品についてのイメージの広がりや工夫点などについて説明できるように支援する。 ◇感想を付箋に書くだけでなく，言葉で伝えたり，質問したりすることができるよう助言する。 ○【鑑賞の能力】（観察，学習カード） 互いの作品について，アイデアやつくり方の工夫に気付き，作品についての見方を深めている。 ◆鑑賞が深まらない児童には，形や色，材料や表現方法など，具体的な視点をもって鑑賞できるように支援する。 ・児童の学習の成果を認め，それを今後の表現や鑑賞の活動に生かすことができるようにする。

６　授業の分析と考察

（１）言語活動の充実を踏まえた表現の指導から

導入の段階で，「試しの学習」を設定し，児童が形や色，材料などに能動的にかかわり，多様な表現を進んで試すことができるようにしたことで，たくさんの材料や用具に触れ，自由に選んだり，試したり組み合わせたりする活動が見られた。資料２のように「材料・用具コーナー」を設置し，児童には用意することが難しいと思われる材料をたくさん用意したことは，多くの児童にとって，製作のイメージをもつきっかけとなった。資料３に，材料からの気付きを製作に生かしたことの記述を示す。他にも，学習カードに材料や用具などを基にして製作のイメージをもったとする記述が多く見られた。

資料２　材料・用具コ　ナ　での様子

資料３　学習カ　ドの記述から

・私は，材料で作品に影響が出ました。青いビー玉を見て，「地球みたいだな。」そして，「宇宙にしよう。」と思いました。

（２）言語活動の充実を踏まえた鑑賞の指導から

ア　イメージを交流する鑑賞活動を設定した学習過程の工夫

学習カードに自分のイメージを表した後の「イメージをもつ鑑賞」では，アイデアスケッチを見せ合いながら，つくろうとする作品のイメージを紹介し合う姿が多く見られた。また，互いの説明を聞きながら，分からない点について質問をすることで，考えがあいまいな部分に気付いたり，よりよいアイデアを見付けたりするきっかけとした児童もいた。さらに，なかなか製作のイメージが浮かばなかった児童も，友人からのアドバイスを得ることで，自分なりのイメージをもつことができた。

２時間の学習活動後に行った「イメージを広げる鑑賞」では，製作中の作品を持ち寄り，積極的に説明をしたり意見を求めたりする姿が見られた。また，製作段階での積極的な鑑賞活動を促したこともあり，自発的に互いの作品について鑑賞し合う姿も見られた。

作品完成後の「イメージを伝え合う鑑賞」では，作品と学習カードを基に，自分のイメージの広がりや工夫した点について，楽しそうに伝え合う姿が多く見られた。

表１　作品のイメ　ジと工夫に関する実態調査
（前：平成22年７月２日　後：平成22年７月15日　実施　第６学年　37人）

質問・回答項目	人　数	
１　どんなときに作品のイメージが浮かんできますか（複数回答）	前	後
・　題材を知ったとき	24	21
・　自分で考えているとき	20	21
・　友人と話しているとき	5	19
・　友人の作品を見たとき	13	18
２　製作中にもっとよいものをつくろうと工夫することができますか	前	後
・　できる	7	18
・　ややできる	18	14
・　あまりできない	9	5
・　できない	3	0

表１は，本題材学習前と後に行った，作品のイメージと工夫に関する実態調査の結果である。質問１の回答からは，友人とのかかわりが作品のイメージをもつきっかけとなった児童が増えたことが分かる。また質問２の回答からは，自分のイメージを基にして，もっとよいものをつくろうと工夫しながら製作することが

できた児童が増えたことが分かる。

これらのことから，学習活動全体を通して，形や色，材料などとのかかわりと，友人との交流が一体的に高まっていくことで，工夫して表すことへの意識が高まり，思考・判断し，表現する力を育てることにつながったと捉えることができる。

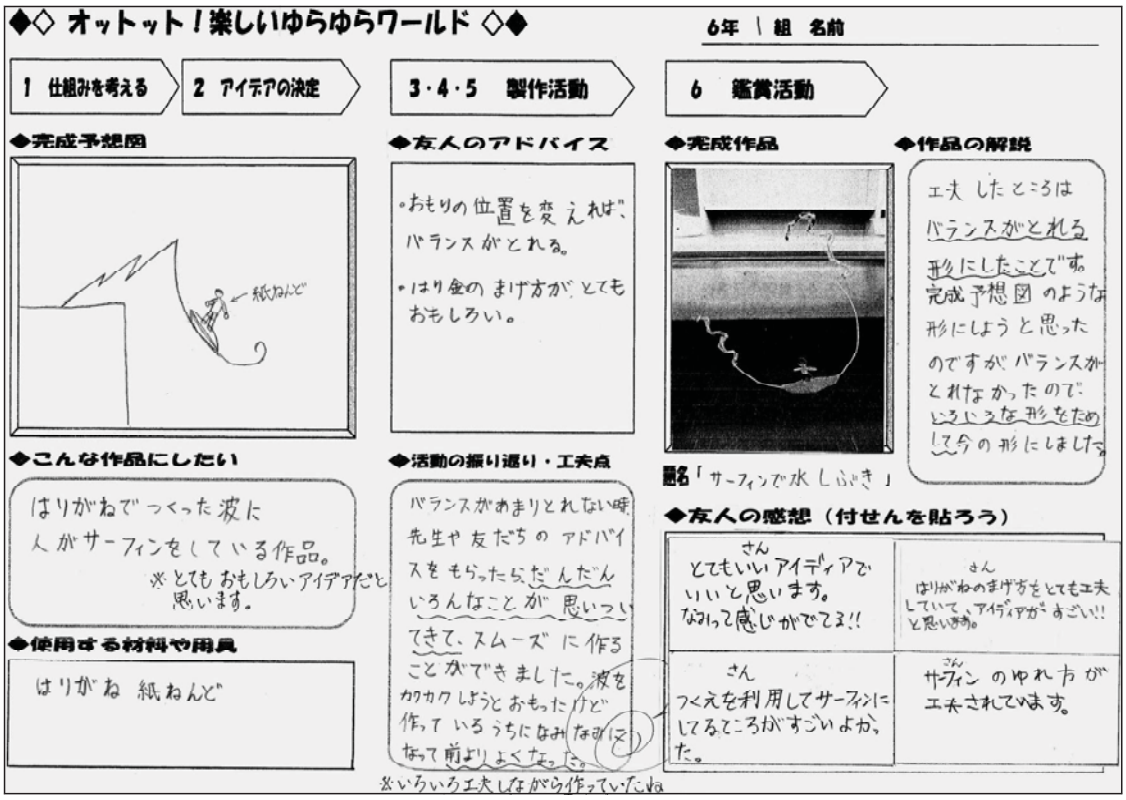
イ　学習カードの工夫と活用

学習カードの形態と内容を工夫して，題材の学習活動の流れと，自分がもつ製作のイメージが容易につかめるようにすることで，多くの児童は，自分の活動をしっかりと把握しながら製作することができた。さらに，表現の過程で気付いたことや考えたことなどを簡潔に記入できるようにしたことで，自分のイメージの広がりや工夫点について理解し，自らの学びとして実感することができたと考える。このことは，友人とイメージを交流する際に，学習カードの記述を確かめながら伝える様子が多数見られたり，資料４のように真剣に学習カードに記入する様子が見られたりしたことからも分かる。

資料４　学習カ　ドに記入する児童の様子

また，友人からのアドバイスを記入する欄をつくり，書き込めるようにしたことで，積極的に意見を求め，新たな視点や考えなどに気付くことができていた。資料５は，実際の学習カードの記述である。アイデアスケッチで考えた仕組みのバランスが取れないでいる児童が，友人のアドバイスを基にして，針金の形態を工夫して製作を進めていったことが分かる。

資料５　実際の学習カ　ドの記述



◆◇ オットット！楽しいゆらゆらワールド ◇◆

6年 1組 名前

1 仕組みを考える → 2 アイデアの決定 → 3・4・5 製作活動 → 6 鑑賞活動

◆完成予想図

◆こんな作品にしたい

はりがねでつくった波に人がサーフィンをしている作品。
※とてもおもしろいアイデアだと思います。

◆使用する材料や用具

はりがね　紙ねんど

◆友人のアドバイス

・おもりの位置を変えれば、バランスがとれる。
・はり金のまげ方がとてもおもしろい。

◆活動の振り返り・工夫点

バランスがあまりとれない時先生や友だちのアドバイスをもらったらだんだんいろんなことが思いついてきて、スムーズに作ることができました。波をカクカクしようとおもったけど作っているうちになみなみになって前よりよくなった。
※いろいろ工夫しながら作っていたね

◆完成作品

略「サーフィンで水しぶき」

◆作品の解説

工夫したところはバランスがとれる形にしたことです。完成予想図のような形にしようと思ったのですがバランスがとれなかったのでいろいろな形をためして今の形にしました。

◆友人の感想（付せんを貼ろう）

さん　とてもいいアイディアでいいと思います。なるほどって感じがでてる!!

さん　はりがねのまげ方をとても工夫していて、アイディアがすごい!!と思います。

さん　つくえを利用してサーフィンにしてるところがすごいよかった。

さん　サーフィンのゆれ方が工夫されています。

このほかにも，学習カードをきっかけとして互いのイメージを交流させ，伝え合いながら表現を工夫する児童の姿が多く見られた。資料６に，学習カードの記述を抜粋したものを示す。

①の記述は，揺れる仕組みのバランスが取れない児童が，友人にアイデアスケッチを見てもらい自分のイメージを伝えながら，具体的な改善点を指摘してもらったことの感想である。

②の記述は，空を飛ぶ飛行機のイメージで製作をしていたところ，紙粘土の模様から地球を連想した友人のイメージを取り入れ，宇宙を飛ぶロケットにテーマを変えたことを表している。

資料６　学習カ　ドの記述（抜粋）

- 最初はとても悩んでいたけれど，友達がアドバイスしてくれて，バランスがよくなった。①
- 空の色を出していて，マーブルの紙粘土ができてしまったときに，「地球にすれば。」と言ってくれた。②
- みんなのアドバイス交かんが，とてもよい時間だった。

以上のことから，学習カードを工夫し，自分のイメージや工夫点，友人のアドバイスなどを書き込むことができるようにしたことで，学習過程に沿って，自分で思考・判断したことを確かめながら，製作をしたり鑑賞をしたりすることができたと捉えることができる。

７　授業研究の成果と課題

小学校第６学年「オットット！楽しいゆらゆらワールド」において，自分なりのイメージを基に，思考・判断し，表現する力を育てる指導について研究を進めた結果，次のようなことが明らかになった。

まず，導入の段階において，材料や用具などに十分かかわることができるように「試しの学習」を設定したことで，児童は，形や色，材料などに能動的に働きかけ，思いに合わせて選んだり，試したりしながら工夫して表すことができた。

次に，学習過程の各段階に児童同士がイメージを交流する鑑賞活動を設定し，友人と話し合ったり見合ったりする活動を取り入れたことで，児童は，自分のイメージや思いを確かめたり，友人がとらえた新たな視点や考えに気付くことができ，表したいことの構想を練ったり，新たな発想を考えたりすることができた。

さらに，表現と鑑賞を通して言語活動の充実を踏まえた学習カードを工夫し活用させたことで，児童は，自らの学びを実感しながら，表現や鑑賞の活動を行うことができた。

以上のことから，言語活動の充実を踏まえ，表現及び鑑賞の活動を通して学習過程を工夫したり，学習カードを活用したりしたことは，児童が自分なりのイメージを基に，思考・判断し，表現する力を育てる手立てとして効果があったと考える。

今後は，児童が自分のイメージの広がりや表現の工夫点を簡潔に記入することができ，さらに言語活動の充実につながるような学習カードの形態や内容について検討し，活用を図っていきたい。

【授業研究３】

中学校第１学年「探検！発見！絵画の世界」における，自分なりのイメージを基に，思考・判断し，表現する力を育てる美術科学習指導
ーアイマスクを使用したイメージと言葉を結び付ける鑑賞指導の工夫を通してー

１　題材名　　探検！発見！絵画の世界

２　題材の目標

○　自分なりの作品のよさや美しさ，込められた思いを感じ取り味わおうとしている。
（美術への関心・意欲・態度）

○　自分なりの感覚を働かせ，作品のよさや美しさ，込められた思いを感じ取り，見方を深めることができる。（鑑賞の能力）

３　題材設定の理由

本題材は，見る視点を明確にして作品を鑑賞する活動を通して，自分なりの作品のよさや美しさ，込められた思いを感じ取ったり，生徒同士が自分の見付けた新たな感じ方を伝え合ったりしながら作品の見方を深めていくことをねらいとしている。アイマスクを使用することで，視覚から作品の情報を得ることができない鑑賞者にどんな作品であるかをイメージさせるために，説明者は積極的に作品を語る「言葉」を探し出して説明しなければならず，おのずとしっかりと視点を据えて作品を鑑賞する姿勢と言葉で表現する力が育まれることが期待される題材である。また，鑑賞者と説明者とに分かれて作品の鑑賞を進めていく学習形態は，生徒主体の能動的な鑑賞活動につながるものと考えられる。

本学級の生徒は美術への興味・関心が高く，発想力や表現力の豊かな生徒が多い。特に，友人や著名な画家の作品を鑑賞することに高い関心を示し，「鑑賞の学習は好きですか」というアンケートにはほとんどの生徒が「好き，楽しい」と答えている。一方で，「見付けた作品のよさや美しさ，表現意図，特徴などを友人に伝えられるか」の質問に対しては，「伝えるのが難しい」，「伝えられない」と答える生徒が多く，このことからこれまでの学習指導の中で，作品から感じ取ったイメージとそのイメージを他者に伝える言葉とを結び付け，鑑賞活動を豊かにする手立てや工夫が十分ではなかったことが考えられる。

そこで，本題材ではこのような生徒の実態を考慮し，アイマスクの鑑賞者に説明者となった生徒が形や色などの造形的特徴を示す言葉を探し出して伝えていくといった言語活動を充実させた学習を展開する。言葉にすることで，よさや美しさの要素を明確にし，作品のイメージと結び付け，相手に伝えることができるようにする。生徒同士が言葉を使って作品についての意見を交流することで，自分一人では気付かなかった価値などに気付き，よさや美しさを感じ取る活動は，自分なりのイメージを基に，思考・判断し，表現する力を育てることができると考え，本題材を設定した。

4　主題に迫る具体の手立て

（１）言語活動の充実を踏まえた表現の指導

本題材は，「Ｂ鑑賞」の内容であるため，表現活動は行わないが，研究主題に迫る手立てとして，中学校「Ａ表現」の指導においては，〔共通事項〕を踏まえた授業の展開に留意する。特に形や色彩，材料などの性質や感情に意識を向けて考えさせたり，対象のイメージをとらえさせたりするために，題材名を工夫したり学習カードを活用したりして，言語活動の充実を踏まえた授業を展開する。

（２）言語活動の充実を踏まえた鑑賞の指導

ア　アイマスクを使用したイメージと言葉を結び付ける鑑賞指導の工夫

鑑賞活動を楽しむことはできていても，作品のよさや美しさを伝えることが難しいととらえている生徒が多いのは，作品から感じ取ったイメージが漠然としているために表現する言葉が見付からないためと考えられる。そこで，自分が感じ取ったよさや美しさとは作品の中の何を指し示しているのかを明らかにし，言葉に置き換えることができるようにするためにアイマスクを使用した鑑賞活動を行う。

アイマスクを使用する鑑賞者と二人の説明者の三人組で行う鑑賞活動は，元々は視覚に障害がある人たちにも作品の鑑賞を楽しんでもらおうと美術館などで実際に行われていた鑑賞法である。視覚で作品の情報を得られない鑑賞者に正しくその内容を伝える必要があるため「視点を定めながら注意深く作品を見るようになる」，「常に作品を見ながら説明するので作品の本質から離れることなく鑑賞できる」ことの２点が，この鑑賞の利点であると言われている。作品の中に表現されている内容一つ一つに視点を置き注意深く見ることで，どんな言葉で伝えたらよいのかが具体的になりイメージと言葉を結び付けやすくなると考える。見る視点を明確にする手立てとして，アドバイスカード（資料１）を作成する。説明を繰り返し行うにつれ，新しい視点を見付けられなくなり，その結果話合いが滞って鑑賞の内容に広がりや深まりが見られなくなることのないよう，アドバイスカードを活用する。カードの視点は生徒が作品を鑑賞しようとするときの視線の先や思考が進む順番に沿って構成する。

このようにイメージと言葉を結び付ける鑑賞指導を工夫することで，生徒が主体的に鑑賞活動に取り組み，自分なりのイメージを基に，思考・判断し，表現する力を身に付けることができるようにする。

資料１　見る視点を箇条書きにしたアドバイスカード

①作品の中にはどんなものが描かれていますか。
②どんな色や線や形で描かれていますか。
③どんな（何をしている）様子ですか。
④描かれた〇〇からはどんな感じを受けますか。
⑤作品全体から受ける印象はどんな感じですか。
⑥作者がどんな思いを込めて描いたか想像しましょう。
⑦鑑賞している作品について知っていることや作品を理解するために必要なことがあったら説明しましょう。

イ　言語活動の充実を図るグループ編成

授業実践に入る前に，対象学級生徒の鑑賞の基礎的能力に関する実態調査（資料２）を行った。生徒の鑑賞の基礎的能力は様々であり，個人差も大きい。しかし，この基礎的能力の違いは，これまでの生活の中でいかに様々なものを見たり聞いたりしてきたかなどといった，経験の差によるものが大きいと考えられる。多くの作

品を見たり自分とは異なった見方や考え方などの新たな鑑賞の視点を発見したりする経験をさせることで，この力も自然と育まれていくものと考える。そこで一人一人の鑑賞の基礎的能力を記述に頼ることなく，より具体的に測れる手立てとして，ＮＹ（ニューヨーク）メソッド（資料３）を取り入れた。この方法を活用して鑑賞経験が浅いと思われる生徒と経験の豊かな生徒とを混合させてグループを編成し，作品の特徴やよさ，美しさを感じ取り伝え合う経験を積ませたり，経験の豊かな生徒の視点や感じ方を聞いたりすることで経験の浅い生徒の見方を広げていけるようにする。また，進行が円滑に進むようリーダーシップを発揮できる生徒を各グループに配置することや，生徒同士の人間関係なども考慮する。

資料２　鑑賞の基礎的能力に関する調査（平成22年６月23日　第１学年　31人）

○　次の絵を鑑賞しましょう。あなたは絵を見るときに，どんな点に視点をおいて見ましたか。

1	何が描かれているのかを見た。	９人
2	描かれているものの意味を考えて見た。	７人
3	描かれているもののつながりやその意味を考えて見た	１人
4	制作した作者の気持ちになって見た。	６人
5	自分なりの考えをもって見た。	８人

※これまでの２回の鑑賞の学習状況とこの調査をＮＹメソッドを基に分類

初級（１～２）	16人
中級（３～４）	７人
上級（５～）	８人

資料３　ＮＹ（ニューヨーク）メソッド・ビジュアルシンキングカリキュラム

段　階	鑑賞する目の発達段階の内容
第１段階	描かれているものだけの鑑賞。作品と制作意図を連動して（まだ）見ていない。
第２段階	第１段階に加え，鑑賞経験が増えて作品について学ぶための方法を欲するようになる。
第３段階	鑑賞だけでなく美術史上の分類を重視するなど，作品についての知識を欲するようになる。
第４段階	表現などに関する知識を踏まえた上で自分の感性を踏まえた解釈ができる。
第５段階	美術史や表現の種類などを熟知しており，作品と対話するかのような思索ができる。

※　マサチューセッツ美術大学教授の理論を基にニューヨーク近代美術館が組み立てた実践的鑑賞用メソッド。鑑賞者としての力を見えているものより５段階に分類し指導に役立てる方法。

５　授業の実践

（１）学習計画及び評価計画（１時間扱い）

時	学習活動・内容	関・意	発・構	技　能	鑑　賞
1	・作品のよさや美しさなどを感じ取り，味わうことを楽しむ。 ・感じ取ったことをアイマスクを付けた相手に分かりやすく伝える。	○			○

〔共通事項〕の視点から	・形や色彩などの特徴や印象などから，全体の感じ，よさや美しさ，作者の心情を感じ取る。

（２）学習の流れ

ア　準備・資料

教師…アイマスク，ワークシート，アートカード，複製画（アンリ・ルソー『熱帯　密林の猿　』），アドバイスカード

生徒…教科書，資料集，筆記用具

イ　学習活動全体の展開

時	学習活動・内容	・指導，○評価，◇言語活動の充実の視点から，◆努力を要する状況の生徒への手立て
1	1　本時の課題をつかむ。 アイマスクを使って鑑賞会をしよう。 (1)複製画（アンリ・ルソー）「熱帯－密林の猿－」を鑑賞し，鑑賞の方法と視点を知る。 ・代表生徒による鑑賞の実演 (2)学習全体の流れを理解する。 2　アイマスクを使用した鑑賞を行う。 [ ] は予想される生徒の反応 ・暗い感じがする。 ・静かな休日のようだ。 ・筆のタッチが生き生きとしている。 ・混色や重色をしている。 ・全体の色から季節は春だと思う。 ・人物の表情から，～をしているところだと思う。 ・この○は，△を表していると思う。 ・作者が言いたいことは～ことだと思う。 3　本時の活動を振り返る。	・導入で扱う鑑賞作品は，黒板半分の大きさに拡大し，活動が始まるまで布で覆い作品への関心を高める。 ・鑑賞の進め方を全員で確認するために〔共通事項〕等で示す要素の多いアンリ・ルソー作「熱帯－密林の猿－」を用いる。 ・鑑賞者と説明者が互いに協力して活動を進めていくことを強調し，協力し合うことでよりよい鑑賞ができることを押さえる。 ◇形や色彩，表現方法，表現意図等の鑑賞の視点を掲示資料を示しながら，明確にする。 ・鑑賞するアートカードを選択する際，鑑賞者にはどんな作品を選んだのかが分からないようにする。 ・アートカードは，写真や抽象画等多様な表現を用意する。 ◇二人の説明者が，順番に作品について補いながら説明することで，見方を深めながら鑑賞を進めることができるようにする。 ・更に詳しく聞きたいときは，アイマスクの鑑賞者が質問をしてよいことを伝える。 ・アイマスクの鑑賞者が描かれていることを当てることが活動の目的ではないことを理解させる。 ・グループ編成は，事前の学習と調査を基に，鑑賞の基礎的能力に差がないようにしておく。 ・一回目の鑑賞が終わったところで，各グループの鑑賞した内容を確認し，見方や感じ方の相違や他グループの説明のよさに気付かせ，二回目の活動につなげる。 ◇自分なりのイメージをもち，「作品をとらえる言葉」を見付け鑑賞者に伝えられるようにしたり，足りない説明を補足したりできるようにする。 ○【関心・意欲・態度】（観察） 自分なりの作品のよさや美しさ，込められた思いを感じ取り味わおうとしている。 ◆説明が続かなかったり意欲が見られなかったりするグループには，アドバイスカードを確認させたり，具体的な部分を教師が示したりしながら支援する。 ○【鑑賞の能力】（観察，ワークシート） 自分なりの感覚を働かせ，作品のよさや美しさ，込められた思いを感じ取り，見方を深めている。 ◆見方のポイントが分からなかったり，作者の思いを感じ取ることができなかったりする生徒には，形や色彩からキーワードを見付けるよう助言する。 ・アイマスクを使用した鑑賞を体験したり，作品の説明をしたりする活動を通して気付いたこと等をワークシートに記入することで，鑑賞の楽しさを実感させる。 ・多様な視点から見ることで，鑑賞に深まりが出てくることに気付かせ，今後の鑑賞や表現の活動に生かせるようにする。

６　授業の分析と考察

（１）言語活動の充実を踏まえた表現の指導から

本研究は「Ｂ鑑賞」の内容であり，中学校解説では鑑賞での言語の活用を一層図ることが示されていることから，鑑賞指導の工夫から分析・考察する。

（２）言語活動の充実を踏まえた鑑賞の指導から

ア　アイマスクを使用した，イメージと言葉を結び付ける鑑賞指導の工夫

アイマスクをした鑑賞者に説明するために，見る視点を明確にして鑑賞を行ったことで，作品のよさや美しさが漠然としたものから具体的なものとなり，自分が感じたイメージとそれを表現する言葉とを結び付けやすくなった。表１からは，感じ取ったことを相手に伝えることができるようになった生徒が増えたことが分かる。また，鑑賞の視点を示したアドバイスカードを活用したことで，具体的に説明することができ，そこから新しい視点を見付けることもできた。

資料４は，鑑賞活動後の生徒の感想を抜粋したものである。作品を見たり選んだりすることを楽しんだことが分かる。また，鑑賞を進めるうちに鑑賞の視点が明確になり，どのように見ていけばよいのかを体験により理解することができたことが分かる。鑑賞で学んだことを今後の表現の活動で生かすことができると考える。

授業観察からは，資料５のように話し合いながら鑑賞するカードを選んだり，資料６のように二人で話し合いながら，よりイメージに合った言葉でアイマスクをする生徒に説明しようとしたりする姿が見られた。

表１　鑑賞活動に関する意識調査
（前：平成22年６月23日　後：平成22年７月12日実施　第１学年　31人）

質問・回答	人	
作品のよさや美しさを友人に伝えることができますか。	前	後
伝えられる。	13	16
ほぼ伝えられる。	9	14
あまり伝えられない。	7	1
全く伝えられない。	2	0

資料４　鑑賞を終えての生徒Ａの感想

今日はいつもの鑑賞とちがい，楽しく活動することができました。説明する絵を自分で選ぶのが楽しかったです。たくさん説明をするうちに，作品の見方が分かってきました。

資料５　話し合いながらカードを選ぶ生徒

資料６　アイマスクをする生徒と作品の説明をする生徒

また，アイマスクをした鑑賞者が積極的に質問する姿や，自分の考えとの類似点や相違点を互いに話し合う姿も見られた。自分で感じたイメージを適切な言葉に表現することができないときには，友人の説明から言葉を見付けたり，アドバイスカードを確認したり，話し合ったりしながら，グループで解決しようとする様子が見られた。

形や色彩，表現方法等を視覚としてとらえられない相手に，自分が感じ取ったことを言葉で説明することを通して，造形に関する言葉が豊かになり，見方や感じ方を深めることができたと考える。

ワークシートからは，生徒が思考・判断しながら鑑賞を進めていたことが分かる記述が多く見られた。「最初は～に思ったが，説明を聞いているうちに違うことに気が付いた。」，「いろいろな感じ方があることに気付き，もっと詳しく説明したくなった。」など，自分一人では気付かなかった価値に気付き，よさや美しさを体験と言葉で味わうことができたことが分かる。

これらのことから，アイマスクを使用した，イメージと言葉を結び付ける鑑賞指導を工夫することは，生徒が主体的に鑑賞活動に取り組み，自分なりのイメージを基に，思考・判断し，表現する力を身に付けることに効果があると捉えることができる。

イ　言語活動の充実を図るグループ編成

鑑賞の基礎的能力の異なる生徒同士のグループ編成は考えていた以上の効果があった。最初はどのグループも伝え合う活動にぎごちなさがうかがえ，グループの中のリーダーシップをとれる生徒を中心に説明を進めていたが，説明する回数が増えるにつれて鑑賞の視点が明確になり，説明にも慣れ，自分からはなかなか説明しようとしなかった生徒も自信をもって自分の考えを伝えることができていた。普段はあまり学習に関心を示さない生徒のいるグループにおいても，本人が身を乗り出して説明をしている姿が見られた。その説明に相づちを打ちながら聞き入る生徒や作品を指で示しながら真剣に説明する生徒も見られた。自分の考えがグループのメンバーに受け入れられているという安心感が自信を生み，結果として意欲的な活動につながったのではないかと考える。

また，回数を重ねるにつれて作品の見方やよさ，美しさのとらえ方や伝え方にも変容が見られた。資料７は，グループＧの活動の様子の一部を示す。

資料７　グループＧの活動の様子（抜粋）

説明者の気付き	鑑賞者の気付き（質問）
・「（この絵を）選んで。」 ・「無理無理。伝えられない。」 ・「全体の雰囲気はラピュタみたい。」① ・「ああ，分かる。分かる。」 ・「壊れた神殿みたいなもの。」「柱があるから。」② ・「夕方から寝るころ。」 ・「柱」 ・「灰色」 ・「単純化というよりは，リアリティです。」	説明者も鑑賞者も意欲的に伝え合い，話し合っている。 ・「どんなものが描かれていますか。」 ・「朝，昼，夜どれですか。」 ・「大きく描かれているものは何ですか。」 ・「その柱は何色ですか。」③ ・「リアリティですか。単純化ですか。」

資料７の①の会話のように，作品から感じ取ったイメージを「〇〇みたいに見える」，「〇〇な感じ」等，自分なりの感じ方に置き換えて伝えているグループが多く見られた。また，②のように，そのように感じた根拠を伝えることもできていた。③からは，自分のイメージをより確かなものにするために，思考に沿って質問していることが分かる。

さらに，「〇〇が見える」や「〇〇は〇色」などの直接視覚に入ってくる情報の他に，「美術の時間に勉強した単純化を使っている。」等，作品の表面的要素だけでなく，技法などの表現手段について説明する生徒も見られた。

生徒一人一人の鑑賞の基礎的能力を考慮したグループ編成をしたことで，生徒同士の説明や質問という言葉の交流をより活発にし，生徒の感じ取る力などの鑑賞の能力を豊かにするだけでなく，感じ取ったことを自分の価値として適切な言葉で表現することができた。

７　授業研究の成果と課題

自分なりの感じ取ったイメージを言葉と結び付ける鑑賞指導の工夫として，アイマスクを使用した。視覚で情報を得られない鑑賞者に説明者が作品のよさや美しさを伝えていく活動により，見る視点が明確になり，自分なりのイメージを基により適切な言葉を思考・判断しながら見付けることができた。感じ取ったイメージとそれを伝える言葉が結び付くことで，グループでの鑑賞活動も活発になり楽しく進めることができていた。このような深まりのある鑑賞ができるようになったことは大きな成果である。

言語活動の充実を図るためのグループ編成として，生徒一人一人の鑑賞の基礎的能力を考慮した。相手の説明をよく聞いたり，伝え合ったりする鑑賞活動がより活発に行われ，自分とは異なる視点や気付かなかった新たな発見を生み，作品や作者に対する新たな概念をつくり上げるなどして鑑賞がより深まりのあるものとなった。また，グループ内で出されたどんな意見や発見も肯定的にとらえることで，人間関係が円滑になり，それがグループ全体の伝え合う力や感じ取る力を大きく伸長させることにもつながった。

アイマスクを使用し，生徒が主体的に取り組める鑑賞活動を繰り返し経験させることで，アドバイスカード等に示されている見る視点を頼りながら作品を見ていた生徒も，自分一人で豊かな鑑賞をすることができるようになることが分かった。

今後は，アイマスクを使用した鑑賞者と説明者それぞれのねらいをより明確にし，生徒自身が自分の学びとして実感することができるような手立てを工夫したい。また，鑑賞から学び取った表現の方法や感性を自分の制作に役立てようとする姿につなげることができるよう，独立した鑑賞を系統的に年間指導計画に位置付けていきたい。さらに，ワークシート等の記述を中心とした評価方法だけでなく，生徒の活動中の小さなつぶやきや，小さな気付きをとらえる方法を検討し，よりよい鑑賞や表現へとつなげていきたいと考える。

3　研究のまとめ

小・中学校の各題材において，言語活動の充実を踏まえた表現及び鑑賞の指導を工夫した授業実践を行うことを通して，自分なりのイメージを基に，思考・判断し，表現する力を育てる図画工作・美術科学習指導の方法について研究を進めた結果，次のようなことが明らかになった。

（1）言語活動の充実を踏まえた表現の指導から

表現活動において，発想や構想，創造的な技能，鑑賞などの能力を働かせながら，形や色，材料などに十分にかかわることのできる場を児童生徒の発達の段階に合わせて設定した。

ア　小学校低学年の実践から

段階ごとに材料の選択方法を工夫したことで，児童は，形や色，材料などに十分にかかわり，構想を練る楽しさを味わいながら積極的に材料を集めることができた。自分の身の回りにあるたくさんの材料に目が向き，児童同士が集めた材料について話し合う場面も見られた。

製作の前に，形や色，材料などにかかわる場を設定したことで，そこから見付けたよさや面白さを自分の作品に生かそうとする姿が見られた。また，形や色，材料などに積極的にかかわることでその特徴に気付き，用途によって材料や技法を選択することができるようになった。

イ　小学校中学年の実践から

本研究においては中学年の授業実践は行っていないが，今年度の他の実践では，題材全体を通して，形や色，材料などにかかわる場を設定することで，児童が既習事項を活用しながら新しい表現方法を見付けることができるようになっている。興味や関心をもつ対象が広がるとともに，ある程度対象を客観的にとらえることができるようになるこの時期に，自分の表したいことに合わせて材料や用具を選ぶことのできる場を題材全体を通して設定することは重要である。

ウ　小学校高学年の実践から

導入の段階で，形や色，材料などにかかわり多様な表現を試す場を設定したことで，児童は表したいことを実現するために，材料や用具を選んだり，様々な表現方法を組み合わせたりすることができた。児童同士がここでの活動から感じ取ったことを伝え合ったり，形や色，材料などの特徴や効果について学び合ったりする姿が見られた。さらに，試したり気付いたりしたことから発想を広げ，次時の製作に生かそうとする姿も多く見られた。

エ　中学校の実践から

本研究は「Ｂ鑑賞」の内容であるが，「Ａ表現」の題材の指導において，生徒が自分で生み出した主題を基に，形や色，材料などに対する感覚を豊かに働かせながら，表現方法を選択したり，試行錯誤しながら創意工夫したりする場面を意図的に位置付けることは，発想や構想の能力や創造的な技能を高める上で効果が認められている。

以上のことから，言語活動の充実を踏まえ，形や色，材料などに十分にかかわりながら創意工夫して表現することができる場を設定したことは，思考・判断し，表現す

る力を育てるために効果があったと考える。

（２）言語活動の充実を踏まえた鑑賞の指導から

鑑賞活動において，自分の創意工夫や気付き等を記述し話し合ったり，感じ取ったこと等を根拠をもって伝え合ったりする活動を児童生徒の発達の段階に合わせて位置付けた。

ア　小学校低学年の実践から

つくった作品の特徴を基に話し合いながら，鑑賞の場である「むら」づくりを行ったことで，児童は作品や材料などに対する素直な驚きや喜びを感じることができた。表現と鑑賞の活動が分け難いこの時期の児童には，作品に触れながら楽しむ鑑賞活動は手立てとして効果があった。また，友人の作品のよさや面白さを手紙で伝える活動を通して，感じ取ったことを簡単な文章に書くことへの関心を高め，多様な見方や感じ方に気付くことにもつながった。

イ　小学校中学年の実践から

鑑賞の対象が広がるこの時期に，児童が自分の思ったことや感じ取ったことを話したり，友人と話し合ったりする場を設定することは，今年度の他の実践から，自分や友人の作品，材料などを自分の見方や感じ方でとらえることができるようにするために効果があることが分かっている。学習カード等を活用しながら，学習過程に沿って児童が思考・判断している様子を自分の言葉で表現したり，それを基に友人と交流したりする活動を工夫することが大切である。

ウ　小学校高学年の実践から

イメージを交流する鑑賞活動を段階ごとに設定し，児童同士が互いの表現の工夫や気付きを伝え合う活動を取り入れたことで，自分にはない新たな見方や感じ方に気付き，それを表現活動に生かす姿が見られた。イメージを交流する際に，学習カードの記述を確かめながら根拠をもって伝え合う様子が多く見られた。学習カードを題材全体を通して活用したことで，気付きや成果を自分の学びとして実感することができた。

エ　中学校の実践から

アイマスクを使用した，イメージと言葉を結び付ける鑑賞指導を工夫したことで，よさや美しさの要素が明確になり，見る視点を整理しながら感じ取ることができるようになった。また，鑑賞する際のグループ編成を工夫したことで，自分一人では気付かなかった価値に気付き，造形に関する言葉を豊かにしながら，主体的に鑑賞活動を進めることができた。

以上のことから，言語活動の充実を踏まえ，鑑賞活動に話合い活動を取り入れたり，学習カード等を工夫し活用したりしたことは，思考・判断し，表現する力を育てるために効果があったと考える。

（３）今後の課題

小・中学校学習指導要領に示されている〔共通事項〕の視点から，言語活動の充実を踏まえた表現及び鑑賞の指導を更に工夫する。

〈主な引用文献〉
中央教育審議会「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」平成20年１月17日
文部科学省「小学校学習指導要領解説　図画工作編」平成20年８月
文部科学省「中学校学習指導要領解説　美術編」平成20年９月

関係者一覧

１　研究協力員

つくば市立小田小学校	教　諭	中島　澄枝
取手市立寺原小学校	教　諭	印南　千明
筑西市立下館南中学校	教　諭	落合　睦美

２　茨城県教育研修センター

	所　長	中村　一夫
教科教育課	課　長	橋本　清明
教育相談課	指導主事	近重　敦子